

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和3年4月28日 ～ 令和4年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象校2校 神戸市立丸山中学校西野分校 神戸市立兵庫中学校北分校 <p>I. 教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ア. 高齢者や外国人向けのカリキュラム開発 ウ. 他市町村の夜間中学や域内の中学校、近隣の定時制高校との連携
調査研究のねらい	<p>ア. 神戸市の夜間中学在学者は、成人し社会生活を営んでいる者や、日本で社会生活を営んでいる外国人生徒が大半であり、学習言語の習得は全員できていない。その生徒の実情に合わせた特別の教育課程を全職員で検討、編成し、学校長の判断を以て実施する。外国人生徒に対しては、教育課程の内外で日本語習得の支援を行う。各言語別に教科年間計画を立てる。以上の教育活動を推進するために必要な教材を精選し購入し、活用する。</p> <p>ウ. 分校と本校の生徒職員の交流を計画的に行い、夜間中学に対する理解を深める。 定時制高校との連携をさらに進め、生徒の上級学校進学を支援する。</p>
調査研究の成果	<p>《神戸市立丸山中学校 西野分校》</p> <p>在籍者30名中24名が外国籍生徒（6か国）であり、日本の公立中学校の教育課程を実施していくうえで、日本語指導が必要不可欠である。</p> <p>【年間を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語、社会、数学、理科、英語は、それぞれ全校で6つの習熟度別学級を編成し、授業を実施した。 ・実技科目については、全校を1学級として、教科担任を中心に全職員で授業を実施した。 ・外国人生徒のために各言語別年間計画を前年度末に作成し、新年度入学状況に合わせ、再検討を行った。 ・外国人生徒に日本語指導を行うため必要な教材を購入し、年間を通じて教育課程内外で使用した。 <p>国語の授業において、日本語理解指導教材として「みんなの日本語」「できる日本語」を購入し、習熟度別に使用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語の入学案内リーフレットを作成した。 ・中学校を形式卒業した入学者に対して、本人の学力と進路希望に合わせて学習指導計画を立てた。カリキュラム作成にあたり

中学校の教育課程を終えているため校長裁量により決定した。各科目の習熟度に応じて、小学校段階からの学び直しが必要であり、その際には小学校の教科書等を使用した。

【4月】新入学生徒受け入れ 7月20日までで13名
(1年生11名・2年生10名・3年生11名)

- ・全職員による学習指導検討会議の開催
日本人生徒、外国人生徒、中学校既卒生徒、それぞれの学習能力を確認し、習熟度別学級の編成を行った。

【5月】

- ・20日(木)と21日(金)の13:00から15:00の4時間、神戸国際コミュニティセンターより日本語指導講師を招き、全教員が参加して日本語指導研修を実施した。

【5月～3月】

- ・毎月、全職員で学習指導打ち合わせ会を開き、習熟度と日本語習得状況を勘案して、毎月習熟度別の学級替えを行った。

【8月】

- ・2日(月)と4日(水)の13時から17時までの8時間、神戸JSL研究会より講師を迎え、全教員に対して、日本語指導研修を実施した。
- ・高等学校進学希望者への補習を行った。(3月まで)
- ・希望する生徒に対して個人別補習を行った。
(文化祭作品制作を含む。)

【9月、10月】

- ・定時制高校と連携し、高校説明会を実施した。

【11月】

- ・2日、文化発表会を実施。学習成果を展示と舞台上で発表した。新型コロナウイルス対応のため、生徒とその家族、本校教職員の参加のみとした。
- ・24日(水) 全市対象 授業公開
神戸市立学校園教員、神戸市教育委員会事務局職員が授業を参観し、夜間中学校の教育活動への理解を深めた。新型コロナウイルス対応のため、地域住民への案内はしなかった。

【1月】

- ・次年度教育課程原案編成会議実施(校長、教頭、教務部長)
- ・次年度教育課程の承認(職員会議)
- ・次年度学習指導検討会議(全教員)

【2月】

- ・作文発表会の実施
- ・入学面談開始 2月1日～7月20日
入学資格 中学校未卒者を原則とする。
市内在住者、市内在勤者
市外在住で通学できる者

中学校形式卒業者は、神戸市教育委員会事務局
学校経営支援課学事計画係が対応する。

- ・ 入学希望者体験入学実施（1日）
外国人希望者に面接を実施し、日本語習得状況を確認した。

【3月】

- ・ 全教員により次年度学級編成会議を行った。（習熟度別）

《 神戸市立兵庫中学校 北分校 》

在籍者18名中14名が外国籍生徒（6か国）であり、日本の公立中学校としての教育課程を実施していくうえで、日本語指導が必要不可欠である。

【年間を通して】

- ・ 外国人生徒が多く、教員に日本語指導の知識が必要なので、「日本語指導に関する校内職員研修」を年に3回実施した。
- ・ 校務分掌に「日本語指導」担当を配置した。
- ・ 神戸YWCA学院から日本語指導講師を招き、希望生徒に対し日本語指導を週2回程度実施。（始業前）
- ・ 国籍が様々な生徒に、お互いの国の文化を尊重する態度を涵養するため、道徳の時間を中心として多文化共生を念頭においた人権教育を進めた。
- ・ 国語は、全校を7学級の習熟度別編成。数学は、全校を6学級の習熟度別編成。英語は学年別に習熟度別3学級の編成により授業を行った。
- ・ 実技科目については、全校を1学級として教科担任を中心として全職員で授業を行った。
- ・ 外国人生徒に日本語指導を行うため、必要な教材をコンピュータで自主作成した。
- ・ 各教室に設置した単焦点プロジェクターとスクリーンを活用し積極的に視聴覚教材を取り入れることで、授業理解につなげることができた。
- ・ 国語科の作文指導に必要な書籍を購入して指導し、2月の作文発表会では、全生徒が成果を発表した。
- ・ 中学校を形式卒業した入学者に対しては、本人の学力と進路希望に合わせた学習指導計画を立てた。カリキュラム作成に当たり中学校の教育課程を終えているため校長裁量により決定した。各科目の習熟度に応じて、小学校段階からの学び直しを行う際には、小学校の教科書を使用し、理解の進み具合に合わせ、使用教科書等の学年を随時上げていった。

【4月】新入学生徒受け入れ 7月21日までで7名
(1年生7名・2年生8名・3年生3名)

【5月～3月】

- ・ 毎月、全職員で学習指導打ち合わせ会を開き、個人ごとの学習

進捗状況を確認し、各個人に必要な教材を段階的に作成した。
また、習熟度と日本語習得状況を勘案して、毎月習熟度別の学級替えを行った。

【7月】

- ・7日（水）の14時から15時30分に、神戸YWCA学院から日本語講師を迎え、全教員に対して、日本語指導研修を実施した。

【8月】

- ・希望する生徒に対して個人別補習を行った。
（文化祭作品制作を含む。）

【9月】

- ・8日（水）の14時から15時30分に、神戸YWCA学院から日本語講師を迎え、全教員に対して、日本語指導研修を実施した。
- ・29日（水）運動会の実施
新型コロナウイルス対応のため、生徒家族、来賓、本校職員への招待は行わなかった。紅白に分かれて種目を競い、日ごろの体育授業の成果を発揮することができた。

【10月】

- ・22日、文化祭を実施。展示や全学年での器楽合奏、各学年による演目を披露し、学習の成果を発表した。新型コロナウイルス対応のため、生徒とその家族の参加に限った。

【12月】

- ・1日（水）の14時から15時30分に、神戸YWCA学院から日本語講師を迎え、全教員に対して、日本語指導研修を実施した。
- ・22日（水）定時制高校と連携し、高校説明会を開催した。

【1月】

- ・次年度教育課程原案編成会議実施（校長、教頭、教務部長）
- ・次年度教育課程の承認（職員会議）
- ・次年度学習指導検討会議（全教員）

【2月】

- ・入学面談開始 2月1日～7月20日
入学資格 中学校未卒者を原則とする。
市内在住者、市内在勤者
市外在住で通学できる者
中学校形式卒業者は、神戸市教育委員会事務局
学校経営支援課学事計画係が対応する。
- ・入学希望者体験入学実施（3日）
外国人希望者に対して面接を実施し、日本語習得状況を確認する。
- ・作文発表会の実施

【3月】

	・全教員により次年度学級編成会議を行う。（習熟度別）
--	----------------------------